



池井 花帆

中央工学校 建築室内設計課
株式会社 日商インターライフ
商環境本部 商業施設部 商業施設2課

「小学校の頃、自分の夢を考えた時」

インテリアなどの空間デザインに興味を持ったきっかけは、小学校の頃に自分の夢を考えた時、とある本を読んだ事でした。その興味から、建築とインテリアを学べる専門学校へ行き、そこで木造、S造、RC造それぞれの図面の違いを学びました。

自分で選んだ町や、その場に合ったコンセプトでお店を設計したり、時には「もし改装したら？」というテーマで商店街の方に実際に協力してもらい、その店長さんにプレゼンをしたりしました。

そういった実務を体験していく中で、店舗の内装に関わる仕事がしたいと思い、お店づくり専門の工事屋さんである日商インターライフへ入社を決めました。

建築歴史や構造、ベクターワークス、フォトショップ、シェードなど、専門学校で得た知識は、今現在、仕事でも役に立っているので覚えて良かったなと思っています。

「調べ、聞き、学んでいく事で不安を減らす」

教科書の中に書いてない事が現場には沢山あります。なので、日々疑問に思った事、分からない事は調べたり、聞いたりして学んでいく事で「分からない」という不安を少しずつ減らして行っています。今はまだ、自分が成長しているのか？実感が湧かないので不安です。今後は、図面と実際の現場の違いに、臨機応変に対応出来る判断力や、相手が何を知りたいのか先読み出来る力を身に付け、分離発注が出来る様になりたいです。

「丁寧で安心感のある、私らしい仕事」

1日でも早く、一人で発注から現場、その後のメンテナンスまで、安心して任せられるようになりたいです。頂いた注文内容に対し、お客様の考えと自分の考えが一致しているのか？など、コミュニケーションを大切に、笑顔、話やすさ、思いやり、知識を上手く使いながら円滑に回せるように頑張ります。そして、丁寧で安心感のある、私らしい仕事というものを作り上げていきたいです。また、協力業者さんにも、働きやすいと言って頂けるような現場にし、信頼関係を築いていけたら嬉しいです。



next HERO

明日の君へ…

新入社員が入社動機から仕事に対する想い、期待、不安、将来のビジョンを語る



「調整業務に主観(思い)のスパイスを」

学生時代の結婚式での装飾の仕事が契機になって空間を作ることを仕事にしたいと思いました。仕事をしてみてわかったのですが、ただ一口に空間を作ると言っても諸々の事柄があります。法規、意匠、運営、時間など。これらの事柄を束ねて捏ねて、これで決定とクライアントが思えるものにすることが最終的にとても重要です。

例えばコーヒーとミルクと砂糖とタバコの四つがあるとします。これらの取捨選択は人の主観によって様々です。人によってはコーヒーにはミルクが必要だとか、砂糖が必要だとかはたまたタバコに合うのはコーヒーだとか、三者三様の様々なニーズがあります。私はこの仕事はこれらのニーズを調整することだと思えます。

調整というのは時には足し算だったり、時には引き算だったり、まさかの割り算だったりします。もちろん私の主観(思い)もスパイスとして入れます。それが隠し味になったりするととても嬉しく感じます



「挑戦の為のベース造りの時」

やりたいと思った仕事をさせてくれる会社なので、自分でやりたいと思ったことに挑戦しようと思います。ですが今はベースとなる知識や経験を蓄積することが必要です。

まだ仕事において一人前ではないので、まずは一步一步しっかり業務をこなしながら、やりたいことを絞り込んでいきたいと思っています。



「コミュニケーション空間というまちづくり」

将来のヴィジョンを向こう10年と設定して考えると、何らかの形でまちづくりに携わりたいと思っています。

「まち」という既存の空間をどのように良くしていこうという行為、運動がまちづくりだと思っています。

個人的な話ですが、広島へ旅行に行った際に出会ったご年配の方が「人と会って話をすることが一番元気になるんだ。」と私に言いました。

この言葉には、はっとさせられました。私は人と人のコミュニケーション空間を作ることもまちづくりになるのだと思いました。今後の取り組み方へのヒントとしてこの言葉を捉えました。

人と接せられる空間というのがどのような形が望ましいのかわかりませんが、そのベクトルへ向かって日々精進して働いています。



原馬 壮騎 (はらま そうき)

法政大学社会学部
ジーク株式会社
第4事業部 営業課